H16「普及に移す成果」

「コシヒカリ」の千粒重増大のための適正移植時期に関する栽培技術マニュアル

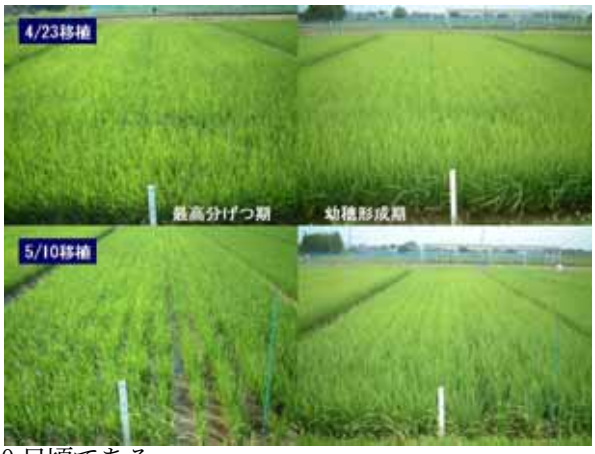
農業総合センター農業研究所

１．技術の概要

「コシヒカリ」は移植時期を５月 10 日頃に遅らせることで、４月下旬移植に比べ生育量が制御され、高温下の登熟も回避されることから、千粒重が 0.5～0.8g 増大する。

1)移植時期と生育の推移

移植時期を遅らせると分げつが少なくなり、過繁茂になりにくい。幼穂形成期の葉色は従来の４月下旬移植で４程度と濃く推移したのに対し、５月上旬以降の移植では 3～3.5 程度と淡い。



2)移植時期と収量、品質、登熟温度の関係

５月 10 日以降の移植は、出穂期が遅れることで登熟期の高温が回避でき、千粒重は４月下旬移植より 0.5～0.8g 増大する。収量は５月中旬以降の移植で低下する。白米粗タンパク質含量は５月下旬移植でやや高まる。従って、適正移植時期は５月 10 日頃である。

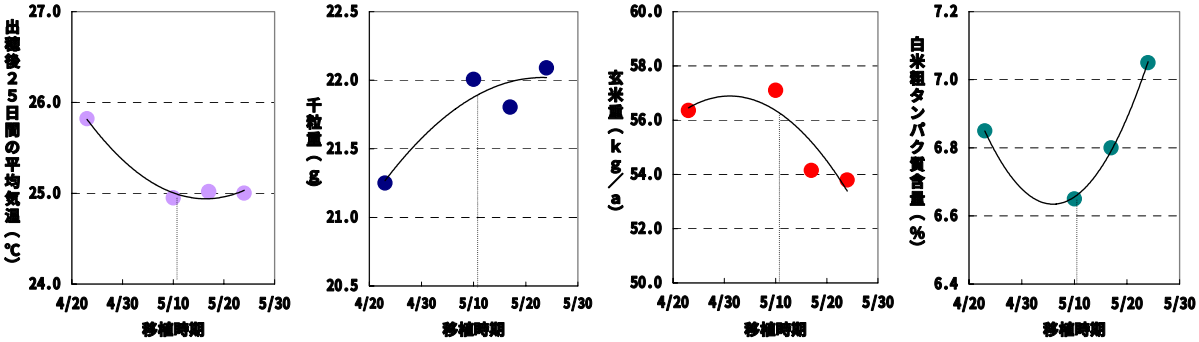


図１　移植時期と登熟温度・収量・品質の関係

3)５月 10 日移植の栽培法

(1)栽植密度及び植え付け本数：株間は 18cm 程度、１株当たり 4～5 本植えとする。

(2)基肥窒素量：土壌診断により適正施用量を決定する(概ね 10a 当たり 2～5kg)。施肥時期が早いと肥料成分が溶出するので、移植時期に合わせて施用時期を遅らせる。

(3)穂肥：出穂前 20～25 日の目標生育量は、葉色がカラースケールで 3.0～3.5 以下、茎数が㎡当たり 500～600 本程度である。この程度の生育量であれば、出穂前 15～18 日頃(幼穂長 1～4cm)に速効性窒素で 10a 当たり窒素 2kg 施用する。

２．適応地域及び普及対象

適用地域は県内全域とする。普及対象農家は４月下旬移植が多い県南・県西地域のコシヒカリ生産農家。

３．栽培管理の留意点

1)育苗：播種期は４月 15 日頃とし、播種量は箱当たり乾籾 150g とする。従来の４月上旬播種より高温下での育苗となるので、育苗期間は 20 日程度を目安とし、温度管理にはこれまで以上に留意する。

2)水管理：4 月下旬移植に比べ分げつが少ないので、従来の間断灌漑、中干しで対応できる。中干しは㎡当たり茎数が 350 本以上(株当たり約 20 本)になったら始める。中干しは６月下旬～7 月初旬にかけて 7～14 日程度行う。その後は間断灌漑を行い、落水は出穂後３０日頃とする。

＜問い合わせ先；農業研究所水田利用研究室　　電話０２９７（６２）０２０６＞